

# 高等学校英語科における語彙習得指導法に関する研究 - 語句のイメージ化を通して -

広島市立広島商業高等学校教諭 福原 一夫

## 研究主題設定の理由

高等学校英語科の各科目において、生徒に語彙を習得させることは指導の根幹部分にあたると思われる。そこで、これまでは語句の意味と発音の確実な定着を目指して指導を行ってきた。よって、生徒は授業において多くの語句に出会い、日々習得を重ねている。しかし、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする場面において、習得した語句を運用することができないことがある。それは、生徒が習得した語句を実際の場面でどのように使うのかを理解することができていないからであると考えられる。

『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』においては「言語材料の分析や説明は必要最小限にとどめ、実際の場面でどう使われるかを理解し、実際に活用することを重視すること」と示されている。このことを踏まえ、語彙の指導においては語句の意味と発音を確実に理解させた後、その使用場面を与えた言語活動によって定着させることができていると考えていた。それにもかかわらず、上記のような生徒の実態が見られる。それは語彙の指導において、「語句の使われる場面」を生徒に意識させる手だての工夫ができていないからであると思われる。もし、「語句の使われる場面」を意識して語句を習得させることができれば、適切な言語運用ができる語句として身に付けさせることができるのではないだろうか。

そこで、本研究では、習得した語句を実際のコミュニケーションの場面で活用することができることをねらいとした語彙指導の手だてとして、「語句の使われる場面」をイメージできるようにさせる指導法を探ることとする。

## 研究の方法

語彙習得において「語句の使われる場面」をイメージするための学習指導法を具体化し、その指導法を取り入れた実践授業において有効性について探り、さらに、効果的な「語句のイメージ化」の手だてについて工夫する。

## 研究の内容

### 1 研究主題に関する基礎研究

#### (1) 語彙と語句とは

語彙とは、広辞苑によると、「一つの言語の、あるいはその中の特定の範囲についての、単語の総体」とある。本研究では、高等学校で習得すべき語句を語彙と考える。

また、語句とは、同じく広辞苑によると「語と句 ことば、ことばの一まとまり」とある。本研究では、上記の意味としてとらえ、その中でも単語と連語を中心に考える。

#### (2) 「語句が使われる場面」とは

コミュニケーションにおいては常に、言語は具体的な場面において、具体的な働きを果たすために使用される。よって、語彙指導においては、言語の使用場面に留意した指導が必要である。

『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』には、言語の使用場面として電話、買い物、家庭、学校、手紙などの日常生活に密着した場面やスピーチやディスカッションなどの場面が例示されている。“cafeteria”であれば飲食場面、“jump”であれば運動場面、そして“sleepy”であれば就寝場面などが想定される。しかし、それらはいくまで言語の使

用場面の設定にすぎない。場面そのものの設定が目的ではないので、「語句の使われる場面」を意識した指導が大切であると考ええる。

例えば、「headache」という語の指導においては、頭痛という日本語の意味と発音を理解させ、たとえ頭が痛くなくても病院などの場面を与え、生徒が“I have a headache.”と運用することにより、その言語の使用場面は理解できていた。

しかし、本来“headache”が使われる場面は、頭がズキズキ痛むという感覚を伴った場面であり、そのことが理解できて初めて、実際にその語が活用できるということであると考ええる。このことから語句を習得するということはその語句の日本語の意味を知ることではなく、その「語句が使われる場面」をイメージできるようになることが重要な要件であると考えられる。

このように考えると、“cafeteria”は、職場や学校の施設が多くの人のために、食事を摂る場所として機能を果たしている場面など、“jump”は、重力に逆らって跳んでいる感覚など、“sleepy”は眠くて仕方のない感情を抱いている状態など、このような語句がもつ感覚をそれぞれ意識させる必要がある。それは、人が語句に対してイメージする感覚であり、その語句の本質とも言えるものであると考えられる。

そこで本研究では、語句に対してイメージする感覚を「語句が使われる場面」としてとらえ、『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』の「言語の使用場面」と区別して取り扱うこととする。

### (3) 「語句が使われる場面」と「語句のイメージ化」とは

認知心理学においてはことばを産出するときや理解するときには、音や文字である言語記号に関する記憶だけでなく、イメージに関する記憶もかかわっているととらえている。このことに関して森敏昭は、「母国語のことばは文字という“記号”と結び付いているだけでなく、“映像的表象”や“活動的表象”とも結び付いている。それゆえ日常生活のリアルな体験を記述することができるのである。」と述べている。これら二つの表象を併せて、「語句が使われている場面」をイメージしたものとしてとらえ、それを

語句と結びつけることを「語句のイメージ化」とする。

### (4) 「語句のイメージ化」を図る指導とは

未習得の語句を人は音で認知する。また、「語句が使われる場面」のイメージを、感覚を通して認知する。よって、語彙の習得には、音として認知された語句を、感覚的に認知したものと結び付ける「語句のイメージ化」が必要であると考えられる。

つまり、「語句のイメージ化」を図る指導とは、文字を見たり、音を聞いたり、発音したりする活動に併せて、視覚、聴覚、臭覚、味覚、触覚などの「感覚」を通してイメージをもたせ、それを音と結び付けて意味を理解させ、把握させることととらえる。

### 2 実践授業の計画と実施

生徒がどのように「語句のイメージ化」を行っているのかを探るために、広島市立A高等学校第3学年の1クラスを対象に Oral Communication

「Unit 5 Visiting the Big Apple Topic B Transportation in Manhattan」の単元において、平成17年10月21日～11月8日に授業を実施した。

なお、実践授業(全3時間)を行う段階では、「語句のイメージ化」を図る指導の流れとして、学習する語句を発音し、「語句が使われている場面」のイメージをもつ、という指導計画を立てた。また、語句ごとにイメージをもたせるために、表1に記載した手だてを考えた。

表1 イメージをもたせるための手だて

	イメージ化するもの	生徒の学習活動
第1時	public transportation	<ul style="list-style-type: none"> <li>語句に対して抱いている情景や感覚などを、文字で記述する。(意識化)</li> <li>記述したものを発表する。</li> <li>イメージした内容を確認しながら発音する。</li> </ul>
	subway	
	fare	
第2時	park the car	<ul style="list-style-type: none"> <li>語句に対して抱いている情景や感覚などを、絵に描く。(意識化)</li> <li>記述したものを発表する。</li> <li>イメージした内容を確認しながら発音する。</li> </ul>
	take the train	
	transfer	

第2時	in front of	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自、語句に対して抱いている情景や感覚などを、文字で記述する。(意識化)</li> <li>記述したものを発表する。</li> <li>イメージした内容を確認しながら発音する。</li> </ul>
	next to	
	in the south part of	
第3時	以前にイメージ化した語句を含んだ短文	<ul style="list-style-type: none"> <li>2つの単文を聞いて、理解した内容を絵に描く。(実感)</li> </ul>
第3時	以前にイメージ化した語句を含んだ文章	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンハッタンへの観光の順番を決定する2人の女生徒の会話であるTask-Listeningを聞き、行き先や交通手段など、理解した内容を文字で記述する。</li> </ul>

### 3 実践授業の結果の分析・考察

「語句のイメージ化」の手だての工夫に対する効果について、実践授業で使用したワークシートと振り返りシートにより、次のような分析を行った。

#### (1) 分析の方法と視点

上記のシートに記述した生徒の感想やデータを集計した。クラス全体に対してと、英語に苦手意識を感じている生徒に対して、この指導の手だてが次の四つの観点から有効であったかどうかを考察する。

ア 「語句のイメージ化」ができているか

イ 「語句のイメージ化」の効果

ウ Task-Listening の内容理解の状況

エ 実践授業の3時間を通して、「語句のイメージ化」のよさが実感できたか。

#### (2) 分析の内容および考察

ア 「語句のイメージ化」ができているか

図1は、第3時の授業後に実施した振り返りシートに記述した「語句のイメージ化」の意識の結果である。

【設問】次の語句について、イメージが浮びますか。

イメージ化した九つの語句のうち、七つの語句については、80%以上の生徒がイメージできていると感じている。このことより、語句を聞いて、各自がもつイメージを文章に書いたり 絵に描いたりして、確認した後、確認し発音する工夫が有効に働いたものと思われる。

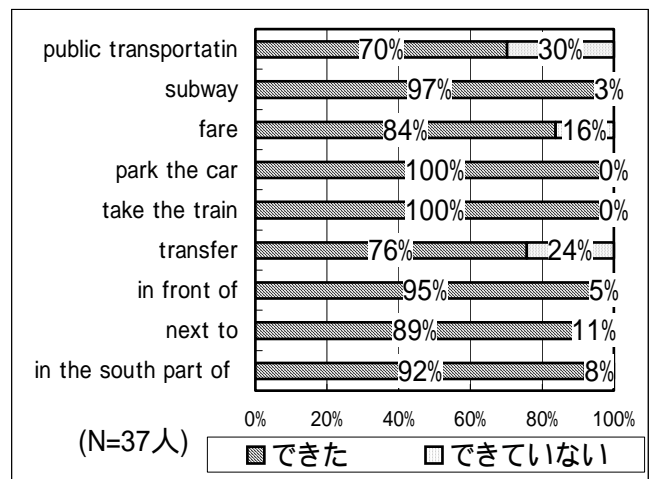


図1 各語句のイメージが浮かんだ人数

図2は、第2時に、イメージ化を図るための語句を含む文を聞かせ、文全体のイメージをもっているかを確認したものである。

【設問】次の文を聞いて、その内容を絵に描きなさい。

英文1 A young girl parked the car next to the building.

英文2 I'll take the train in front of the large park.

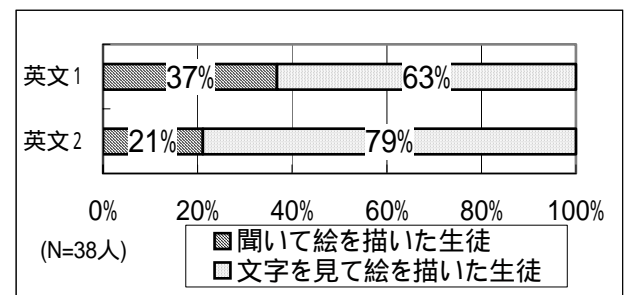


図2 二つの英文を聞いて理解した生徒数

1人を除き全員が絵に描いているが、音を聞いて絵が描けた生徒は、2～3割と少なく、音とイメージとを結び付けることができていなかったと考える。

図3は、第3時の活動の中で、イメージ化を図るための語句を含む比較的長い会話文を四つのパートに分けて聞かせ、行き先と行く手段を理解することができた生徒数を表している。それまでに習得した語句をイメージ化することができていれば、行き先と行く手段をある程度理解できるのではないかと考

えた。

【設問】次の文を聞いて、行き先と行く手段を答えなさい。

Part1(take the train, park the car が含まれる会話文)

Part2(transfer, in front of, subway が含まれる会話文)

Part3(take, subway, in the south part of が含まれる会話文)

Part4(take the train, next to が含まれる会話文)

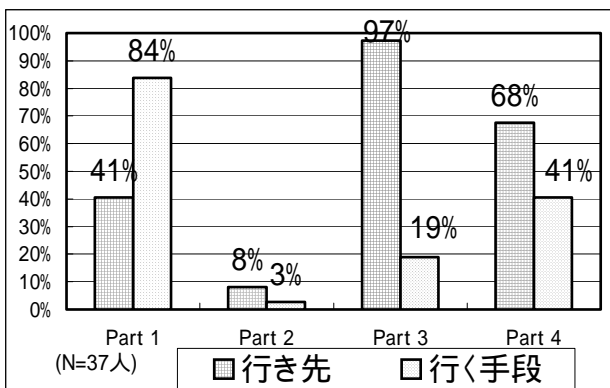


図3 Task-Listening の内容を理解した生徒数

Part 1 では、行く手段の正答率が 84% と高い要因は、“take the train” と “park the car” のイメージ化ができていたからである。また、Part 3 では、行き先の正答率が 97% と高い要因は、“in the south part of” のイメージ化ができていたからだと考える。

Part2 の正答率が極端に低いのは、語句がイメージ化できていても問題の提示方法が適切ではなく、イメージ化した語句だけでは解答が導き出せないものであったからである。

以上のことから、すぐに運用面に反映されるほどの「語句のイメージ化」の段階までには、至っていないと考える。

#### イ 「語句のイメージ化」の効果

図4 は、第2時において、二つの英文を聞いて語句のイメージ化の有効性を実感した生徒の割合を示す結果である。

【設問】次の文を聞いて、以前より聞きやすいと感じましたか。

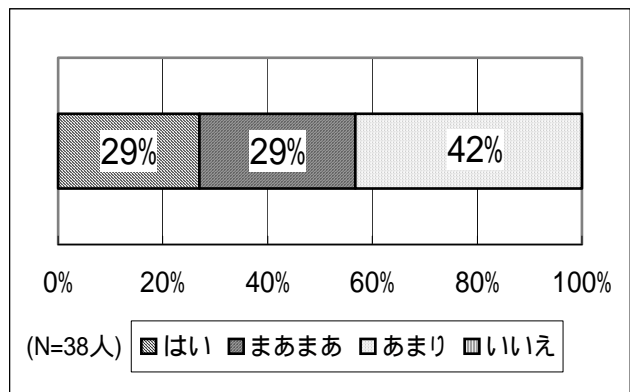


図4 語句のイメージ化を実感した割合

図2 で示したように、実際に英文を聞いて絵を描いた生徒は 20~30% であったにもかかわらず、「語句のイメージ化」によって、58% の生徒が今までとはどこか違う感覚をもった。「はい」または「まあまあ」と答えた生徒は、以下のような理由を挙げている。このことから、「語句のイメージ化」による効果があったと考える。

- ・ 自分で絵を描いたから覚えやすい。
- ・ 後で聞いても頭に残るような気がする。
- ・ 想像しながらだから聞きやすくなった。
- ・ すぐに映像が浮かぶようになった。
- ・ 語句をイメージできたから。
- ・ イメージがすごく浮かんできた。
- ・ 文章を聞いて情景を浮かべたから。
- ・ イメージしながら語句を聞き取ったので、情景が浮かびやすかった。

#### ウ Task-Listening の内容理解の状況

図5 は、第3時において、比較的長い会話文を聞いて、「語句のイメージ化」により聞きやすいと実感した生徒の割合を示す結果である。

【設問】Task-Listening が、以前より聞きやすいと感じましたか。

図6 は、同じく第3時において、比較的長い会話文を聞いて、「語句のイメージ化」により理解できたと実感した生徒の割合を示す結果である。

【設問】Task-Listening が、以前より理解できたと感じましたか。

図5 の結果から、第3時の Task-Listening を聞くという課題は、生徒にとって聞き取りの難易度がかなり高い英文であったにもかかわらず、73% の生徒

が「はい」または「まあまあ」と回答しており、以前より聞きやすいと振り返っている。また、図6の結果から、70%の生徒が「はい」または「まあまあ」と回答しており、以前より理解できたと振り返っている。このことから、「語句のイメージ化」を取り入れた指導の有効性がうかがえる。

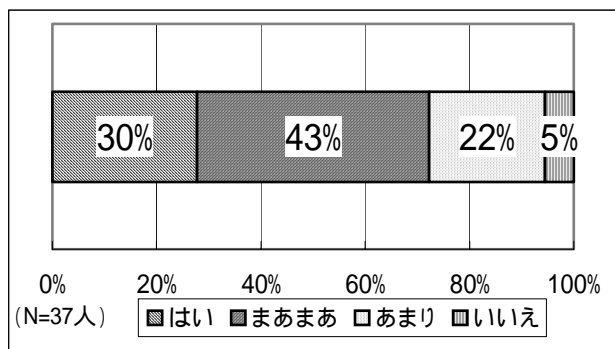


図5 Task-Listening が聞きやすいと感じましたか

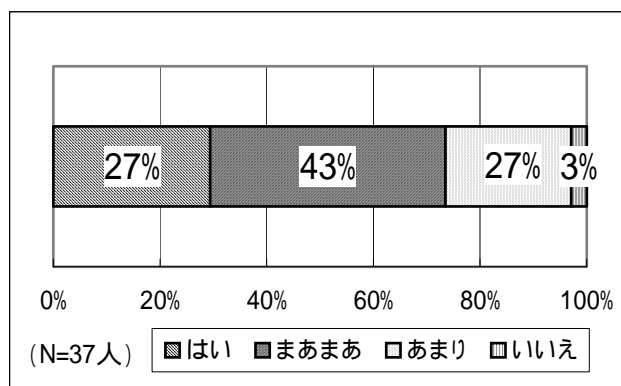


図6 Task-Listening が以前よりも理解できたか

### エ 「語句のイメージ化」のよさの実感

表2は、実践授業における毎時の生徒の感想から、「語句のイメージ化」をどうとらえているかを分析し、その変化を示している。

表2 生徒の「語句のイメージ化」に対する感想

	生徒 A	生徒 B	生徒 C	生徒 D
第1時	頭の中でいろいろ想像することは新鮮な感じだった。イメージしたりそれを言葉にしたり、絵にしたりすることは <u>楽しかった</u> 。英語でしゃべられるとやる気がなくなりました。 ( の段階)	絵や情景などを考えたのはすごく新鮮だった。英語は苦手ですが、 <u>楽しかった</u> です。絵を描くことによって伝えることもできると思いました。 ( の段階)	普通のやり方ではただ覚えるだけで実用的に感じなかったが、情景などをイメージしたので英語を <u>身近に感じる</u> ことができた。英語が得意な方ではないが、絵を描いたりして新鮮で <u>楽しかった</u> です。 ( と の段階)	新鮮で <u>楽しかった</u> です。想像力が豊かになりました。今までは一つの語句をそこまでイメージしたことはありませんでした。 ( の段階)
第2時	前回の授業よりも意味が <u>理解できた</u> と思います。英語でしゃべった後に、日本語で解説を付けてくれたのもよかったです。 ( の段階)	イメージすることで、その時の情景が少し <u>浮かぶ</u> ようになった。今までの授業と違い新鮮でよかったです。 ( の段階)	だんだん英語の語句から情景が <u>パッとすぐ浮かぶ</u> ようになったので良かった。イメージすることで、今まで以上に英語を <u>理解</u> することができるようになった。 ( と の段階)	文を聞いたときに意味を理解しながらイメージしなければならぬので難しかったのです。人とのイメージの違いも面白かった。 <u>楽しかった</u> 。イメージすることは <u>大切だ</u> と思いました。 ( と の段階)
第3時	イメージが頭の中で <u>浮かび</u> 、理解できた気がします。それに文字だけでやるよりも忘れにくいと思いました。聞いただけで <u>理解</u> することができたと思うのでよかったです。 ( と の段階)	映像を浮かべることで、語句の意味が <u>覚え</u> られるようになった。映像を浮かべることで <u>状況がわかる</u> ようになったと思います。 ( と の段階)	絵を書いたりしたので語句の情景が <u>浮かぶ</u> ようになった。今日のリスニングは聞き取りにくかった。 ( の段階)	リスニングは苦手ですがイメージすることで会話の内容が <u>わかりやす</u> くなりました。 <u>楽しく</u> 授業を受けられました。 ( と の段階)

【設問】本時の授業でよかったことがあれば書いてください。

ここでは特に、あまり英語が得意ではなく、顕著に変化が見られる生徒の中から、無作為に生徒Aから生徒Dの四名を抽出した。また、「語句のイメージ化」のよさを実感する段階を、次の～に分類し、整理した。

この手だての授業方法は楽しかった。



覚えやすい、または、理解しやすいと、「語句のイメージ化」のよさを感じた。



「語句のイメージ化」ができた。



覚えることができた、または、理解できた。聞くことができた。

生徒の感想から、個人差はあるものの、最初どの生徒も の段階であったが、学習を進めるにつれて段階的に変化し、第3時を終えると の「語句のイメージ化」ができた段階に達し、さらに の理解の定着に有効であるということを実感していると言える。

特に、生徒Dに着目すると、結果的には の段階にとどまっているように見えるが、この生徒にとっては、毎時間授業が楽しいと思える気持ちが継続し、また、第3時では難易度の高い課題であったにもかかわらず、会話の内容がわかりやすくなってきたと感じている様子がうかがえ、「語句のイメージ化」の手だての効果があったと言える。

また、ここでは特に取り上げなかったが、英語が得意な生徒の感想からも、「語句のイメージ化」を導入した授業に対して興味や関心を持ち、積極的に学習する姿が見られ、実践授業を通して、語句をイメージ化することができた の段階や聞くことができた と実感する の段階にまで達していたことがわかる。

### (3) 実践授業を通して見えてきた課題

今回の実践授業においては、語句の意味内容の提示を生徒の多くが望んだため、日本語の意味を確認をすることをやっている。その結果「語句の使われ

る場面」のイメージ化の際に、実際にイメージ化されたものは英語の語句そのものではなく、日本語の介在した意味内容（日本語訳）であったので、語句の正確なイメージ化となっていなかったと考えられる。

例えば、“fare”という「語句のイメージ化」ができていていると思われる指導において、その語句の日本語の意味を「運賃」という意味を含めて、「料金」という形で与えた。その日本語の意味から、実際に4人の生徒が一般的な料金と勘違いして、自動販売機でジュースを買っているような場面をイメージしている。しかし、これは“fare”の正確な語句の理解ではなく、間違った理解につながっていると言える。

また、“public transportation”の指導においては、生徒に関連した「語句の使われる場面」を自由にイメージさせたが、その後それらを発表させただけで終えてしまっている。この語は集合名詞なので生徒はバス、電車などのいくつかの関連した場面を理解しただけで、その語の「語句の使われる場面」を理解することはできていないのではないかと考えられる。「これらに共通することは何ですか。」などの発問をし、焦点化する指導が必要であったと感じる。

### 4 「語句のイメージ化」を図る指導の再構成

実践授業を通して明らかになった「語句のイメージ化」を図る指導の課題を解決するために、次のような改善の視点を定めた。

- ・ 日本語の意味を介在せずに、感覚を通して意味内容を把握させる。
- ・ 「語句のイメージ化」の際に、自由に「語句の使われる場面」をイメージさせた後、その語句の本質に焦点化させる。

そして、表それらをもとに「語句のイメージ化」の指導法をモデル化したものを表3のように構成した。

その考え方を基に、実践授業でイメージ化を試みた語句のうち、“fare”“public transportation”“in front of”の3つをもう一度イメージ化する展開を表4のように再構成した。

表3 語句の特徴を踏まえた「語句のイメージ化」のモデル

手だての工夫の基本的な考え方			
1 発音練習を行う。 2 視覚や動作などの感覚を通して、「語句の使われる場面」のイメージをもつことのできる活動を行う。 3 「語句の使われる場面」のイメージが、もてたかどうかを確認する活動を行う。			
	語句とそのイメージすべき「語句の使われる場面」の例	「語句のイメージ化」の手だて	教師の支援（発問や指示）
視覚的	(具体物が比較的理解しやすい名詞) pottery 「土で作られた壺や皿などが作製されたり、使用されたり、または鑑賞されたりなどされ、存在している場面」	<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚的な材料を提示する。</li> <li>美術館での鑑賞の場面、床の間などや玄関などが飾られている場面、それを製作している場面など、生徒からの回答を黒板に書く。</li> <li>金属やガラスで作られた壺や皿などを提示し、それが具体物を表しているか質問し、語句のイメージ化ができていないか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「その語がどのような場面・状況で使用されるのかを考えて下さい。」</li> <li>「これらは何でできているのでしょうか。」</li> <li>「回答の中で共通していることを土台にして、一文でこの語が使用される場面・状況を表してみよう。」</li> <li>“Is this a pottery?”</li> </ul>
	(集合名詞) insect 「体が頭、胸、腹の三部に分かれ、六本の足を持つ節足動物が観察されたり、採取されたり、飼育されたりなどされ、存在している場面」	<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚的な材料を提示する。</li> <li>昆虫が生きている場面、昆虫採集の場面、昆虫を飼っている場面など、生徒からの回答を黒板に書く。</li> <li>蜘蛛やミミズなど昆虫に類似したようなものを提示し、それが具体物を表しているか質問し、語句のイメージ化ができていないか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合名詞なので、それを表すものを数枚提示する必要がある。</li> <li>「その語がどのような場面・状況で使用されるのかを考えて下さい。」</li> <li>「回答の中で共通していることを土台にして、一文でこの語が使用される場面・状況を表してみよう。」</li> <li>“Dose this photo show an insect?”</li> </ul>
	(多様な日本語の意味をもつ動詞) wear 「身体に何か付帯した場面」	<ul style="list-style-type: none"> <li>口紅をしている場面、口ひげを生やしている場面などを提示する。</li> <li>生徒が回答した場面を黒板に書く。</li> <li>髪を生やしている場面、ニコニコしている場面などを提示して、wear で表現できるか質問し、語句のイメージ化ができていないか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「これらの場面からこの語を表す他の場面を考えて下さい。」</li> <li>「この語を表す場面を一言で述べて下さい。」</li> <li>「これらの場面で wear は使えますか。」</li> </ul>
	(多様な日本語の意味をもつ前置詞) on 「接触、支も、継続しているなどの場面」	<ul style="list-style-type: none"> <li>「何かが接触している場面」</li> <li>on the table, on the wall, on the ceiling の場面を提示する。</li> <li>生徒が回答した場面を黒板に書く。</li> <li>指輪をしている場面、通りで遊んでいる場面、バイクに鍵が付いている場面などを提示して、on で表現できるか質問し、語句のイメージ化ができていないか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「これらの場面からこの語を表す他の場面を考えて下さい。」</li> <li>「この語を表す場面を一言で述べて下さい。」</li> <li>「これらの場面で on は使えますか。」</li> </ul>
動作的	(比較的簡単に動作で理解することができる動詞) nap 「短い眠りを行っている場面」	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジェスチャーで居眠りの場面を提示する。</li> <li>授業中の場面、温かい陽だまりの場面など、生徒からの回答を黒板に書く。</li> <li>教師が nap, sleep の動作を行って、瞬間的にその語句を発音させることによって、語句のイメージ化ができていないか確認させる。(またはその語句を発音して、生徒にその動作を行わせる。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「この語がどのような場面・状況で使用されるのかを考えて下さい。」</li> <li>「sleep のもつ場面と違いますか。」</li> <li>「回答の中で共通していることを土台にして一文でこの語が使用される場面・状況を表してみよう。」</li> <li>「動作している場面の語句を答えて下さい。」</li> <li>「発音する語句の動作をして下さい。」</li> </ul>
	(比較的簡単に動作で理解することができる位置関係の語句) next to 「主体に対して客体がその横の位置に存在する場面」	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒を使うなどして“Can you stand next to me?”など会話して、その位置関係の場面を動きで提示する。</li> <li>二つの建物が並んで建っている場面、映画館で二人が並んで座っている場面など生徒からの回答を黒板に書く。</li> <li>英語で指示して、その動作を行わせ、語句のイメージ化ができていないか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「この語がどのような場面・状況で使用されるのかを考えて下さい。」</li> <li>「回答の中で共通していることを土台にして一文でこの語が使用される場面・状況を表してみよう。」</li> <li>「次の英語の指示に従って下さい。“Can you sit next to Miss A?”」</li> </ul>
その他の感覚	(聴覚を通して理解できる語句) noisy, など 「大きな音がして、イライラを感じている場面」 (感覚を通して理解できる語句) ache など 「長く続く、鈍い痛みを感じている場面」 (その他味覚、臭覚、触覚などを通して理解することができる語句)	<ul style="list-style-type: none"> <li>可能であれば実際に聞かせる、感じさせるなどを行う。できなければ、音に驚いている場面や、胃痛などの場面を絵や動作で提示する。</li> <li>勉強中に大きな騒音に困っている場面や、大きな音で会話ができない場面、体のどこかが痛む場面など生徒からの回答を黒板に書く。</li> <li>実際音を聞くことで noisy の場面を提示して、noisy と感じたら挙手をするなどして語句のイメージ化ができていないか確認する。</li> <li>心の痛みを感じている場面を提示して ache が語句のイメージ化ができていないか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「その語がどのような場面・状況で使用されるのかを考えて下さい。」</li> <li>「回答の中で共通していることを土台にして一文でこの語が使用される場面・状況を表してみよう。」</li> <li>「音を聞いて noisy と感じたら挙手して下さい。」</li> <li>「この場面で ache は使えますか。」</li> </ul>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>実物、絵、写真、映像などが用意できるものは用意する。</li> <li>Picture Dictionary など活用する。</li> <li>感覚的に理解しにくい語句には、英英辞典を参考にすると「語句の使われる場面」のイメージの例が提示しやすい。</li> <li>生徒がイメージする「語句が使われる場面」は必ずしも口頭で回答させ、黒板に書く必要はない。時間があれば絵に描かせ、それらを OHP などでも提示する活動などもよいのではないかと考える。</li> </ul>		

表4 実践授業において学習した語句の再イメージ化案(“fare” “public transportation” “in front of”のみ)

語句とそのイメージすべし「語句の使われる場面」の例	「語句のイメージ化」の手だて	教師の支援(発問や指示)
(具体物が比較的的理解しやすい名詞) fare 「お金が運賃として使用されている場面」	<ul style="list-style-type: none"> <li>バス, 市内電車, JRの運賃支払い場面など視覚的な材料を提示する。</li> <li>生徒のジェスチャーが正しいかどうかを, 他の生徒に問いかける。</li> <li>料金箱にお金を入れたりする動作をジェスチャーで行い, 語句のイメージ化ができているかどうかを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「その語がどのような場面・状況で使用されるのか考えて下さい。」</li> <li>「お金やバスカードなどを用いて, ジェスチャーでこの語が使用される場面・状況を表してみましょう。」</li> <li>「このお金は fare として用いられていますか。」</li> </ul>
(集合名詞) public transportation 「ある交通手段が運賃を払い, 移動するための手段となっている場面」	<ul style="list-style-type: none"> <li>バス, 市内電車, アストラムライン, JRなどの視覚的な材料を提示する。</li> <li>旅行の場面, 街へ出かける場面, など生徒からの回答を黒板に書く。</li> <li>ラクダとか船などを提示し, それが具体物を表しているか質問し, 語句のイメージ化ができているか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合名詞なのでそれを表すものを数枚提示する必要がある。</li> <li>「その語がどのような場面・状況で使用されるのか考えて下さい。」</li> <li>「広島以外のその語の使われる場面はどうでしょうか。未来においてはどのような場面が考えられるでしょうか。」</li> <li>「回答の中で共通していることを土台にして一文でこの語が使用される場面・状況を表してみましょう。」</li> <li>「ラクダが public transportation となるのはどんな場面でしょうか」</li> </ul>
(比較的簡単に動作で理解することができる位置関係の語句) in front of 「主体に対して客体がその前の位置に存在する場面」	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒を使うなどして“Can you stand in front of me?”など会話して, その位置関係の場面を提示する。</li> <li>二つの建物が道を挟んで見合わせて建っている場面, 映画館の前で待ち合わせをしている場面など生徒からの回答を黒板に書く。</li> <li>英語で指示して, その動作を行わせ, 語句のイメージ化ができているかを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「この語がどのような場面・状況で使用されるのか考えて下さい。」</li> <li>「回答の中で共通していることを土台にして一文でこの語が使用される場面・状況を表してみましょう。」</li> <li>「次の英語の指示に従って下さい。“Can you sit in front of Miss A?”」</li> </ul>

## 成果と課題

### 1 成果

「語句のイメージ化」により「語句が使われる場面」をイメージすることができ, 語句に関して正確な理解を深め, 運用しやすいと実感できる語彙習得につながるということがわかった。

語彙習得する過程を具体化することができた。

指導上の課題を明らかにし, 「語句のイメージ化」のモデルを例示し, 効果的な指導を再構成することができた。

「語句のイメージ化」を図る指導が, 生徒の英語に対する興味や関心を高めるのに効果的であることがわかった。

語句の段階からその「語句が使われる場面」をイメージして意味内容を理解することは, 文や文章においてもその使用場面を意識し内容を理解することにつながるということが生徒の感想から伺えた。

### 2 課題

「語句の使われる場面」という表現は抽象的であり, 具体的にそのものを伝える語を考え出すこ

とができている。それを表す語を具体化することによってイメージ化を図るものを, より明確なものとする必要があると考える。

「語句のイメージ化」のモデルは例示することができたが, 今後の実践の中で, 様々な語句に関して, この手立ての工夫のさらなる有効性を探り, 多くの語句に関して体系化していきたい。

例えば「聞くこと」においては英文の量, 速さ, 内容などの段階の差を十分吟味するなど, 語彙を運用する場面において, 生徒に余裕をもつて「語句イメージ化」の有効性を実感させる展開を考える必要がある。

## 参考文献

- 新しい教育心理学者の会『心理学者 教科教育を語る』 北大路書房 1995
- 森敏昭『認知心理学を語る おもしろ言語のラボラトリー』 北大路書房 2001
- 『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』 文部省 開隆堂出版 1999